

## 資料

## 「第三次稲城市立病院改革プラン」の点検・評価(中間報告)

## 評価

○: 達成  
 △: 一部達成  
 ×: 未達成

(1)収支改善	評価				備考
	H29	H30	R1	R2	
①収入の増加・確保					
○積極的に可能な施設基準を取得して収益の確保に努めていく。	○	○	※		平成29年度に、翌年度の診療報酬改定に向けてセミナーなどに積極的に参加し、情報の収集及び体制の見直しを行った。 また、平成30年度診療報酬改定において、入退院加算等の新基準を取得した。
○効果的・効率的な診療報酬請求事務をさらに進めるとともに全職員が診療報酬について、情報共有しながら請求精度の向上に努めていくことで、返戻・査定が減少でき、医業収益の増加が図られる。	○	○	※		効果的・効率的な診療報酬請求事務をさらに進めるとともに、全職員が診療報酬について、情報共有しながら請求精度の向上に努めたことで、入院収益が増えた。 3,491,822千円(H28年度)⇒3,550,901千円(H29年度) 対前年度比59,079千円増加
○引き続き、全科の延患者数等の目標を設定し、院長ヒアリングにより達成状況を検証していく。	○	○	※		年3回の院長ヒアリングの中で、各科の目標値を設定し、その達成具合を確認するとともに、課題等を整理して医業収益の向上に努めた。
○近隣医療機関との病病・病診連携をより一層充実させるとともに、老人保健施設、訪問看護ステーション等とも連携を円滑に機能させることで、患者紹介率の向上を図り、医業収益確保に努めていく。	○	○	※		医療ソーシャルワーカーを増員するとともに、介護に不安がある方がお気軽に相談できる窓口として、「医療・介護連携相談窓口」を新たに設置した。 また、相談内容に応じて、所要の窓口や地域の介護関係者等へ早急に橋渡しを行った。

○未収金の発生を防止するため、各公費負担制度の利用方法について、患者へのさらなる周知と、より相談しやすい窓口対応に努めていく。 また、未収金が発生した場合には、引き続き、電話・文書による催告のほか、訪問徴収を行い早期回収に努め、場合により、法的措置を含めた債権回収を実施する。	○	○	※		未収金の発生を防止するため、各公費負担制度の利用方法について、患者へのさらなる周知と、より相談しやすい窓口対応に努めた。
②費用の削減・抑制					
○経費について、引き続きベンチマークによる費用分析を行い、適正なコスト管理に努めていく。	△	○	※		診療材料に続き、薬品もベンチマークを取り入れ、他病院との比較を踏まえ交渉を行った。
○医薬品について、ジェネリック医薬品の使用率をさらに高め、費用の削減に努めるとともに、在庫管理の徹底に努める。	○	○	※		医薬品について、ジェネリック医薬品の使用率向上に努めた。 93.4%(H28年度) ⇒ 97.1%(H29年度) 対前年度比3.7%増加
○医療機器の購入にあたっては、引き続き、医療機器管理委員会において更新の必要性及び費用対効果などの検討を実施しながら進める。	○	○	※		医療機器管理委員会において、更新の必要性及び費用対効果などを検討した。 各科予算要望 執行額 約330,000千円 ⇒ 143,475千円 (H28年度) 約250,000千円 ⇒ 168,310千円 (H29年度)
<b>(2)経営の安定</b>	評 価				備 考
	H29	H30	R1	R2	
○今後の医療ニーズに対応した医療スタッフの確保に努め、経営の安定化を図る。	○	○	※		医療ソーシャルワーカーを増員し、地域連携の強化に努め、経営の安定を図った。 1人(H28年度) ⇒ 2人(H29年度) 対前年度比 1人増員
○引き続き、初期臨床研修医を確保し、臨床研修病院としての機能周知を図るとともに、院内の活性化につなげていく。	○	○	※		引き続き、初期臨床研修医を確保した。 また、平成30年度は、関連病院にポスターとチラシを持ち込み又は配布したり、また初期臨床研修医マッチングのために人材登録し、その確保に努めた。

○特定看護師及び認定看護師のさらなる充実を目指し、専門職が多く魅力ある病院として、看護師の確保を図っていく。	△	△	※		資格を持った看護師の更なる充実と確保を目的に、特定看護師及び認定看護師の手当について検討を始めた。
○引き続き、医療職の確保のため、院内保育室の活用等、働きやすい職場環境を整えていく。	○	○	※		引き続き医療職確保のために、院内保育室の運営について、現場との連携を密にしていく。 1,639人(H28年度) ⇒ 1,654人(H29年度) 対前年度比 15人増
○引き続き、運営会議を毎月開催し、毎月の経営状況を示すことで職員の経営認識を高めていく。	○	○	※		各科ごとの患者数や収益及び、様々な医療行為についての前年度及び前月実績との比較を、毎月行い、特筆すべきところを具体的に挙げて報告を行った。
○職員の職務・職責や勤務実績に応じた人事考課制度の見直しを行う。	△	○	※		人事考課制度について、類似病院の現状を調査するとともに、セミナーなどに参加し、人事考課制度の見直しを始めた。 また、平成30年度は、評価期間の見直しを行った。
○医療を巡る環境やニーズ等の変化に対応するため、専門的知識を有する職員の計画的な育成努めていく。	○	○	※		医事課職員を中心に、診療報酬に関するセミナーに積極的に参加した。
<b>(3)その他運営について</b>	評 価				備 考
	H29	H30	R1	R2	
○救急搬送の受入れ推進のために、引き続き、特定の看護師への情報の一元化をもって対応する体制やオンコール体制により救急患者のより迅速な受け入れを進めていく。	○	○	※		稲城救急からの要請に対し、約90%前後と応需率を保っている。 稲城救急応需率 91.6%(H28年度) ⇒ 91.1%(H29年度)

○今後も、医師が地域連携室スタッフとともに関係機関へのさらなる訪問活動を進めていくことにより、現在の市立病院における医療提供体制を周知し、患者を紹介していただくことにつなげる。また、引き続き、地域連携だよりや、顔写真入り医師紹介冊子を作成し、市内外の医師会や、医療機関等への配布を行う。	○	○	※	市内医療機関からの紹介件数は、一時的に減少したが、近隣市からの紹介件数は増えた。 府中からの紹介件数 1,216件(H28年度) ⇒ 1,312件(H29年度) 対前年度比 96件増 顔写真入り医師紹介の地域連携だよりを発行した。
○ホームページや広報紙等を有効に活用することで、市立病院における取り組みについての紹介・案内などの情報提供をより一層推進していく。	○	○	※	SNSの更新を行い、病院の様々な取り組みの周知に努めるとともに、平成30年度に広報で、市立病院特集号を発行した。 また、開設70周年を迎え「稲城市立病院70周年史」を作成した。
○引き続き、「健康バンザイ！いなぎ講座」や「生活習慣病教室」等を開講することにより、市民の健康予防に努め、魅力ある病院を目指していく。また、市立病院を広く周知するために「稲城ふれあい保健・医療まつり」を開催していく。	○	○	※	引き続き、「健康バンザイ！いなぎ講座」や「生活習慣病教室」等を開講するとともに、「稲城ふれあい保健・医療まつり」を開催した。 また、平成29年度は、「健康バンザイ！いなぎ講座」100回記念講演を行った。 さらに、平成30年度は、「生活習慣病教室」で、調理実習を取り入れた新たなスタイルの教室を始めた。
○災害拠点病院として市や、稲城市医師会等と連携し、今後も災害医療訓練の実施を進めていく。	○	○	※	消防本部及び医師会と連携し、多負傷者受け入れ訓練を実施し、BCPマニュアルの更新に努めた。 また、東京都、南多摩医療圏における災害通信訓練に参加した。

※新型コロナウイルス感染症対応のため、現時点で評価していない。